<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：大船ルーテル保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：田中島 光江	定員（利用人数）：190名（191名）	
所在地：〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷2丁目26番3		
TEL：045-892-2366	ホームページ：https://ikusosu.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1967年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人イクソス会		
職員数	常勤職員：44名	非常勤職員：25名
専門職員	（専門職の名称）	名
	保育士 34名	社会福祉士 1名
	看護師 1名	管理栄養士 1名
	栄養士 1名	幼稚園教諭 31名
	小学校等の教員免許者等 4名	衛生管理士 1名
	社会福祉主事 1名	食品衛生管理者 2名
	子育て支援員 1名	モンテッソーリ教員免許 29名
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室	多目的室
	乳児室	調理室
		調乳室
		事務室
		応接室
		屋外遊技室

③理念・基本方針

<理念>

- キリスト教の理念に基づき多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重し、総合的に提供されるよう創意工夫をすることにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的とする。
- 「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」

<基本方針>

- ユネスコが提唱した「生涯教育」を念頭において、『誕生から学齢期までの一貫教育』を意図しています。更に児童憲章とキリスト教精神を基にして保育所保育指針、モンテッソーリ幼児教育を以て当園独自の保育をすすめています。

<保育理念> ～イクソス会が大切にしていること～

- 私たちは、モンテッソーリ教育とキリスト教教育を軸にした保育を行っています。一人ひとりの園児と向き合い 子どもたちの自主性・個性を尊重します。

④施設・事業所の特徴的な取組

●大船ルーテル保育園は、社会福祉法人イクソス会（以下、法人という）が、3つの目標を掲げ、①「事業福祉」、②「幼児養育」、③「母親の就労支援」の目標達成のために「キリスト教の愛」を持って保育園の運営を実施することを決意し、昭和42年4月に開園された歴史ある保育園です。開園当初の定員は60名でしたが、周辺環境のニーズを踏まえ、昭和46年に増改築を行い、定員150名とし、さらに昭和51年に増築を図り、定員180名となり、平成5年には定員の変更を行い、190名として現在に至っています。

●大船ルーテル保育園の特徴として、ユネスコが提唱した「生涯教育」を念頭に入れた0歳から就学前までの一貫保育を心がけ、児童憲章とキリスト教精神を基に、保育所保育指針、モンテッソーリ幼児教育（乳児も含む）を併用した保育を進めています。また、次世代育成を中心にした子育て支援（家庭支援）にも力を入れて取り組んでいます。日常保育では、子どもたちが人間として必要な基本的な生活習慣（挨拶、食事、排泄、整理整頓、清潔、他者への思いやり等）が年齢に応じて身に付くよう支援を行い、子ども一人ひとりの健やかな成長・発達に向けて適切な援助を行っています。園が目標とする子どもの姿として、「他人に迷惑をかけずに、いたわりの心を持つ園児に」、「互いに協力できる園児に」、「個性を大事に健やかに成長する園児に」、「明るく素直で礼儀正しい園児に」を掲げ、目標を目指して保育に当たっています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2019年 12月 11日（契約日） ～ 2020年 6月 4日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2014年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1. 【キリスト教教育の推進】

●大船ルーテル保育園の保育の特徴の1つとして、キリスト教教育があります。キリスト教教育は、園運営の原点であり、保育を実践する上での指針になっています。「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもその通りにせよ。」（新約聖書マタイによる福音書7章12節）イエス・キリストの教えを、朝の祈り、食事の祈り、帰りの祈りを毎日行い、3歳～5歳児は朝の祈りはチャペルで燭台に灯されるローソクを前に子どもたちは胸に手を当てて讃美歌を歌い、お祈りをします。お祈りをする子どもたちの姿、顔はとても厳かです。1歳児、2歳児は各保育室でサークル（ミニ礼拝式）を行っています。職員は、今日1日子どもたちに実りある保育が行えることを祈り、キリスト教の教えに沿って保育が行われていきます。

2. 【モンテッソーリ教育の推進】

●大船ルーテル保育園ではモンテッソーリ教育を行い、基本として、「障害の有無にかかわらず、全ての子どもは自ら成長していく力（自己教育力）を持っている点に視点を置き、教育を展開しています。モンテッソーリ教育は個別活動として、発達段階に応じて環境構成を設定して行っています。具体的にはカリキュラムに従って用意された各種教具（既成の物、保育士の手作り等）に触れ、幼児の持つ自発的で創造的な関心を段階的に引き出し、子どもが教具集中を通して秩序ある自己育成を促し、教育

して行きます。ルーテル保育園ではモンテッソーリ教育のカリキュラムを「日常生活の練習」(#1~#29)、「感覚教育」(#1~#43)、「言語教育」(#1~#42)、数教育(#1~#35)とし、各#1から概ね1歳、2歳以上から年齢別にカリキュラムのNO順に割り振り沿って覚えていくことを基本とし、全体的な計画に附表として展開しています。

3. 【幅広い教育の推進】

●その他の取り組みとして、3歳以上児の「国際の時間」、「音楽の時間」、4歳、5歳児での「絵画の時間」、・「体操の時間」です。国際の時間では、昨今、国際交流の波に覆われており、英語を学ぶことのみではなく、日本人以外の人々と幼少期から交わることが国際感覚の始まりになることを踏まえ、園では、「体を使って学ぶ英語」とし、身近に国際感覚豊かな講師と接する時間を設けています。絵画の時間は、美術大学卒の講師が特別絵画指導に来園し、子どもたちの創造力の芽を育み、上手に絵を描くことより子どもの持つ感性を伸ばしながら、子ども一人ひとりが持っている力を育むよう展開しています。体操の時間は、スイミングクラブの講師からコーディネーショントレーニングを受けています。心身の活動を十分に行い、基礎体力を養い、また、日頃の保育士以外の大人と交流を持つことで視野を幅広く広げるよう支援しています。

◇改善を求められる点

1. 【次期幹部職員の育成】

●職員の人材確保・採用については、大船ルーテル保育園のみではなく、法人系列保育園全体としても採用・定着等に苦慮し、職員動向については保育園間の異動等により主任クラスが手薄であることを鑑みます。職員の補充は急務ですが、全園の体制を維持するためには園長の存在は重要であり、主任クラスからの昇格を考慮して実施すると、実務の核である主任が不足する体制にあります。キャリアアップの制度を最大限有効活用し、早期に次期幹部職員の育成に努めていかれることを期待いたしております。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名： 社会福祉法人イクソス会 大船ルーテル保育園

施設長： 河野 知代

(※受審時の施設長：田中島 光江)

<評価に取り組んだ感想>

- ・ 第三者評価を受けるにあたり、職員一人ひとりが基本に立ち返ることができました。
- ・ 自分の立ち位置等も見直す機会が与えられました。

<評価後取り組んだ事として>

1. マニュアルの見直しと共に重要事項説明書の確認と読み合わせ
2. 安全対策をさらに取り組む

⑧第三者評価結果
別紙2のとおり